

スルホニルウレア抵抗性雑草迅速検定システムの応用

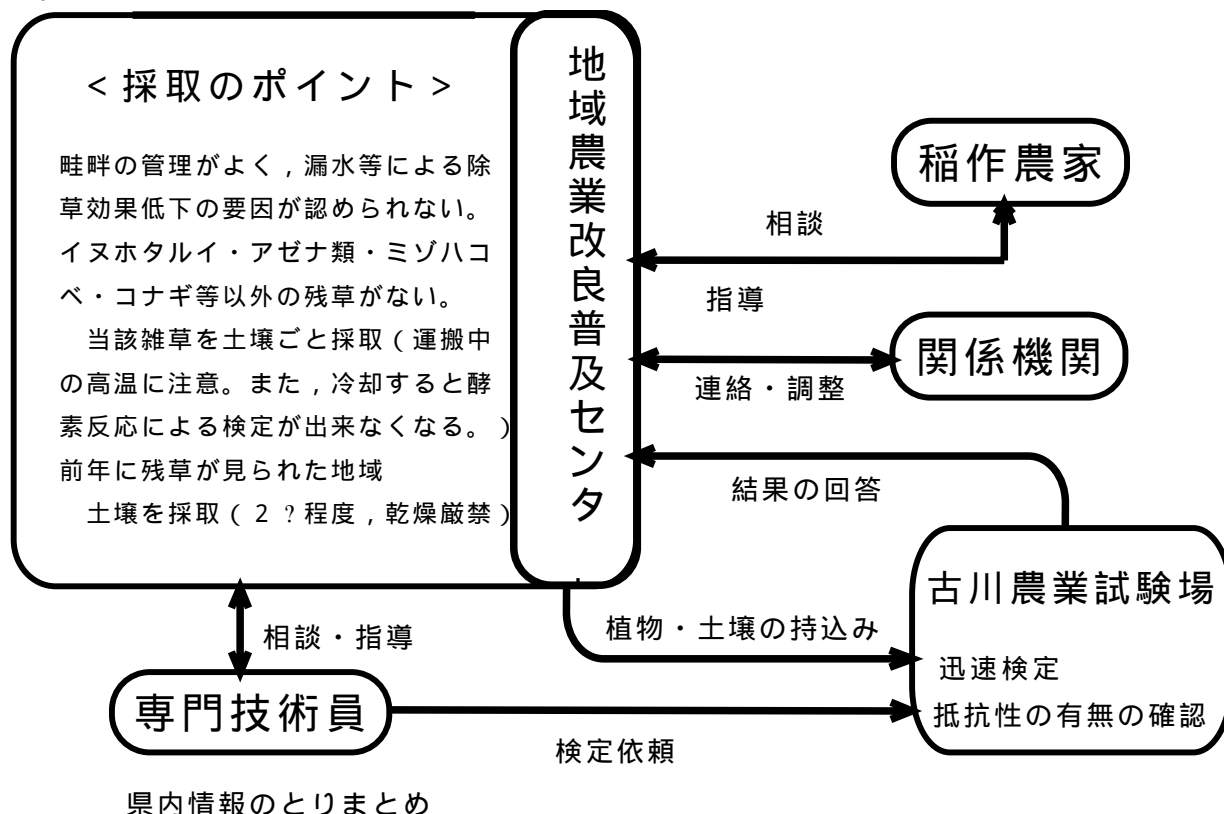
古川農業試験場

1 取り上げた理由

スルホニルウレア抵抗性（以下SU抵抗性という。）雑草防除技術を確立するため、県内における発生状況について分布調査（平成8, 9・10, 11年）を実施してきた。平成13年は迅速検定法により抵抗性確認と分布調査を行った（図1～図3）。その結果、分布域は徐々に拡大してきていることがあきらかになった。発生地域を含め未発生地域においても水田の残草をよく確認し、適切な除草剤を施用するために、SU抵抗性草種の有無について確認する必要があるので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 従来、SU抵抗性確認には、水田での雑草の発生状況及び残草草種確認、種子採取、ポット栽培による検定試験実施まで1年以上を必要とした。そこで、古川農試では内野らの迅速検定法を導入し、植物体の持込み、栽培管理、検定実施まで最短で2週間程度に短縮し、季節を問わず普及センターからの持込み草種の検定に対応することを可能とした。
- 2) SU抵抗性雑草の防除指導フローを下図のとおりとしたので活用されたい。



3 利活用の留意点

- 1) 仙台市及び三陸沿岸部は調査を実施していない。また、全県的な悉皆調査結果ではない。
- 2) SU抵抗性草種が発生した地点での根絶は困難であり、発生は継続している。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話 0229-26-5106）

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

スルホニルウレア系除草剤抵抗性雑草種の分布調査（平成13年）

2) 参考データ（図内の実線は市町村界，網掛けは主要水田地帯）

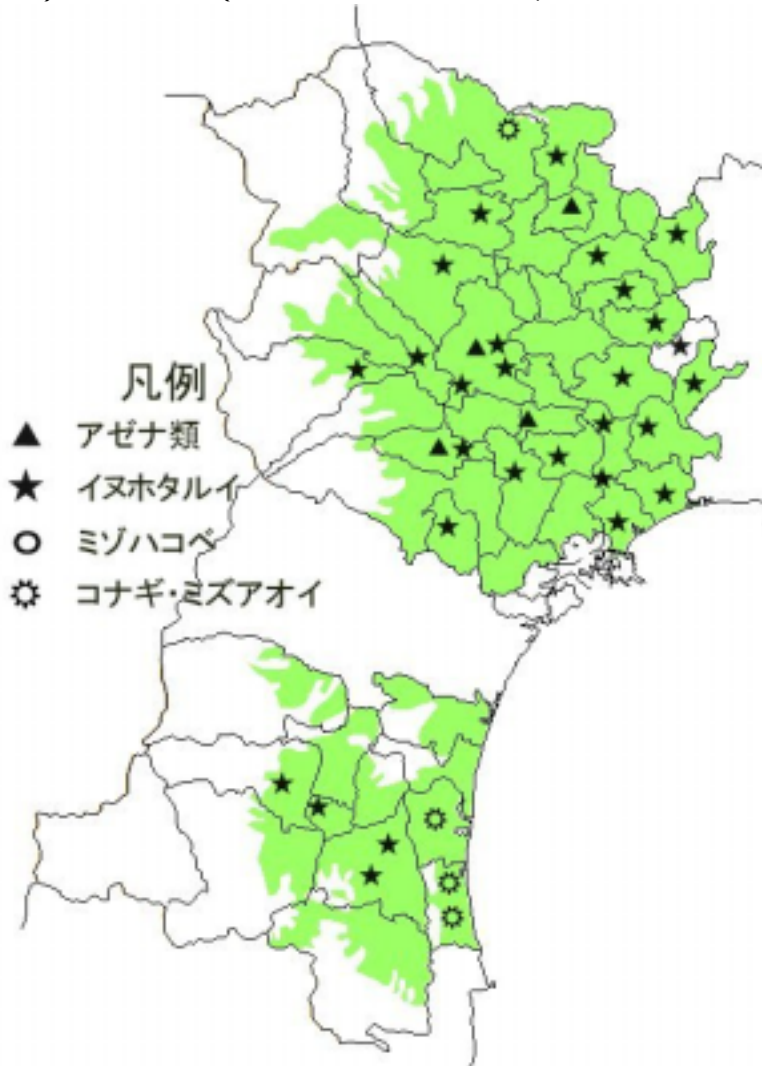


図1 平成13年調査結果

概要

- a アゼナ類は激しい発生の圃場は認められなかったが、SU抵抗性は各地域に分布していた。
- b イヌホタルイは、各地域に分布し激しい発生が認められた。甚発生圃場のほとんどがSU抵抗性であった。
- c ミゾハコベは、今回の調査ではSU抵抗性は認められなかった。
- d コナギは、山元町を中心に約200ha程度の圃場に県内で初めてSU抵抗性生物型の発生を認めた。また、コナギ発生田の一部にSU抵抗性生物型のミズアオイの混生を認めた。

3) 発表論文等

なし

: 東北農業研究センタ - (1999)



図2 平成9年調査結果



図3 平成11年調査結果